

平成 28 年度文教民生常任委員会視察報告会要点記録

- ・日時 平成 28 年 12 月 13 日
- ・場所 第 1 委員会室
- ・会議時間 13 : 00 ~ 13 : 47
- ・出席者 委員長 京西 且哲
副委員長 澤田 和代
池田 啓子
井舎 英生
井上 源次
岩崎 雅秋
友永 修 (五十音順)
- ・視察先 11 月 7 日 (月) 三重県四日市市
11 月 8 日 (火) 長野県塩尻市
- ・テーマ 地域包括ケアシステムについて (四日市市)
塩尻市市民交流センター (えんぱーく) について (塩尻市)

< 四日市市 >

委員 7 名の考察

- ・自治会活動を基点に広く参加をよびかけ地域で支え合い、体制づくりを住民が主体となって、日常生活支援を会員制組織として実施されている。
- ・社会福祉法人と住民組織の役割分担がなされ、行政がエスコートしながら活動拠点を中心として、地域住民の互助のとりくみが促進される。
- ・地域の「民」の力を使わなければ成り立たない介護の総合支援事業については、厚労省の「モデル地区」となっている四日市市「ライフサポート三重西」の取り組みは大変興味深いものがあった。
- ・マイナス条件をプラスにしているところが、長く暮らす人たちのすばらしさだと感じた。高齢化が進む困りごとの助け合い精神から総合事業の「サービス B 型」の受け皿となる組織が出来上がっていた。
- ・行政は全域に「サービス B 型」を広げていく具体例として、「ライフサポート三重西」を示し、市営住宅の集会所を提供。地域力の発掘と市の資源の提供が求められる。また、介護サービス要支援 1・2 を制度で給付することが根底にあり、それを利用することができるという安心があってこそ地域の力を活用した「サービス B 型」が生きてくる。

- ・自らの生活は自らが守る住民の助けあう理念がすごい。
 - ①総合相談機能、②食の確保機能、③地域住民のつどいの場としての機能を併せ持つ孤立化防止拠点「ぬくみ」はすばらしい。食事の宅配も連携して行われている。
 - ・ライフサポート三重西・ぬくみ・準備中の「通所サービスB型」の拠点が空き店舗活用の有効に使われている。
 - ・本市にとっても住民主体による支援の運営や社会福祉協議会との連携の参考になる。
-
- ・家事レベルの障害を生活圏の住民が助け合う事業内容で、顔の見える人間関係をつくり、孤立化、孤独死を防ぐため、ボアンティア精神で活動。
 - ・アンケート調査をして、食の問題が深刻であることがわかり、軽食、喫茶ができるサロンができた。マンパワーをうまく合致させた環境づくりがすばらしい。まずはモデルとなる地区をつくってみてはどうか。
-
- ・四日市市 7 割と岸和田市 3 割と自主財源の面で大きく違うので、財源の豊かさで取組み方が全く違うことを感じた。
 - ・運営側には元市職員と元市議員が携わり、組織的に関わっていることが大きい。組織的に事業の見通しを立てて、取組んでいる。
 - ・マイナスをプラスに変えていく力がすごい。
-
- ・高齢化の進む中で自分たちの要求や将来の心配を解決するための組織を自治会とは別に立ち上げ、会費制で運営している。運営の中心を担う元市職員と元議員の力が大きい。
 - ・会費制で運営し、その活動が元からあり、そこへ制度として地域支援総合事がのってきているので、一から互助の組織を作り上げていくことは時間もかかり、大変だと感じた。本市の市民協や民生委員が担っていくとなれば、かなり難しいと感じた。
 - ・食事サービスぬくみはシャッター通りになった商店街を社会福祉法人と協力して、運営している。今後、通所施設Bも開設。経営は赤字。マイナス経営をプラスにすることが課題。いずれこの運営も社会福祉法人から住民に手渡したいとのこと。
 - ・事故が起こった時の対処、若い人の後継者づくりが課題。
-
- ・地域の歴史があって、助け合う土壌があり、住民の互助が必要最小限の助け合いが成立している。その上に制度がのった形。

- 独居の男性が毎日ボンカレーを食べ続けていたが、「ぬくみ」での低額の食事提供により、食事もとれ、通う間にコミュニケーションができ、その方が支援する側に回っていくということになればよい。
- 行政主導のサービスではなく、高齢者が本当に必要としているサポートを最小限のサービスを低料金で提供している運営内容は参考にすべき。

以上

<塩尻市>

委員 7名の考察

- ・ 市民による市民のための交流センターとして、中心市街地の活性化を図るために、基本計画を策定し、さまざまな事業を展開するが、十分な活性化に至らず市民協働のまちづくりを目指し、建設された。市民と行政が検討を積み重ねて、建設に至った点で公共施設のあり方を示している。
- ・ 市民と協働による運営を掲げている。
- ・ 行政による「公営」の施設から市民が主体となって施設運営を行う「市民営」をめざす、多機能が連携したサービス提供は参考になった。

- ・ 基礎免震工法、『壁柱』を利用した施設のレイアウトがユニークで、床面積や壁面を有効に活用されていることが興味深い。
- ・ 市民参加による検討が始まって、5年の年月を費やして「建設構想」「基本計画」「実施設計」となった。
- ・ 行政組織を単に集約した複合施設ではなく、縦、横の組織の連携をうまく生かしている。
- ・ 「知恵の交流を通じた人づくりの場」とした市民センターは、その計画をすすめる「図書館」を中心に、「子育て支援・青少年交流」、「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の機能がある。
- ・ 市民と行政が共に、設計、運営、組織、機構を作り上げたものは真似できるものではない。
- ・ 塩尻市の現実から出発し、塩尻のアイデンティティ、塩尻らしさをみた。

- ・ 67万人の来館者を迎えていることに驚く。
- ・ 市民交流センター整備に向けた経緯を聞き、市民協働のまちづくりをめざし、市民公募のメンバーによるグループの提言書を基に計画されたことが素晴らしい。
- ・ 館内は吹き抜けで明るく、行きたい図書館に選ばれるはずだと思った。
- ・ 図書館の老朽化が進む中、図書館を中心とした建替えの参考になった。

- ・ 「子育て支援・青少年交流施設」「シニア活動支援施設」「市民活動支援施設」「ビジネス支援施設」の5つの機能を兼ね備えた複合施設となっている。
- ・ メインの図書館施設については非常に開放感のある空間。子育て支援スペースも隣接している。飲食許可でWi-Fiが利用できビジネスマン、高校生、青年層も活用しやすい。
- ・ 子育て世代や高齢者も安心できる環境がある。

- ・毎日 2200 人来館。近隣市からも利用されている。建築物というより、街の中にある雰囲気のある建物。
 - ・壁柱で空間を自由設計している特徴ある建物。
 - ・公設、市民営は注目すべき方向。
 - ・毎日でも出かけたいたいと思わせる建物。
-
- ・下から積み上げて作り上げてきた建物と運営方法だと感じた。
 - ・それぞれの立場、世代の要望がこの建物の中に集約されている。
 - ・それは、市民の意見を 1 年かけて聞き取り形にしたもの。
 - ・市民の活動を支え、意欲を引き出している。
 - ・図書館を中心に集客することが鍵。
 - ・子育て支援は教育委員会、図書館は社会教育課、建物は企画課とセクションは分かれているが、建物の管理統轄は一つになっている。
 - ・旧図書館は公民館として会議室などに変更されている。
 - ・新図書館は建物 5 階建てで、どこで本を読んでもいいように、椅子とテーブルが置いてある自由な空間を演出。
 - ・一歩足を踏み入れたら楽しくなる図書館を中心とした複合施設づくりはプロの集団、市民の集団が長い時間をかけて作り出した賜物。
-
- ・市民が何を求めているかに基づいて 1 年かけて意見を聞きながら作り上げた建物と運営のルール。
 - ・受け入れる側の気持ち、運営側の気持ちなどうまく回っていると感じた。ただ本を並べるのではなく、CD と作曲者の伝記、譜面集を一緒において、興味がつぎへとつながる仕掛けになっている。
 - ・子育て世代への気配りで、本を入れるカートがあるなど、来館者への心づかいがある。
 - ・会議室やフリースペースが充実していることや音楽練習室など市民のニーズに応えている。
 - ・本市も図書館、公民館など子育て世代からシニア世代までが活用したくなる施設の見直しが必要。

以上